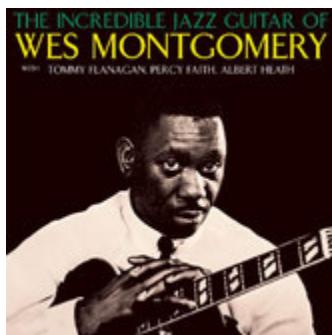


私の名盤レコード 3. ウエス・モンゴメリー (WES MONTGOMERY) 編

自分が本物のジャズを最初に聴いたのが、ウェス・モンゴメリーだと思います。大学生の頃、先輩から借りたアルバムをカセットテープに録音したのが「Full House (フルハウス、出典 Riversid Records)」で、それまではアメリカや日本のジャズフュージョンに夢中でした。1962年のライブ録音で、大学生の頃で1978年頃に初めて本場のジャズに触れたという感じです。

彼を世に知らしめたアルバム第1作は、「The Incredible Jazz Guitar (インクレディブル・ジャズギター、出典 Riversid Records 1960年)」で、「Four on Six」「West Coast

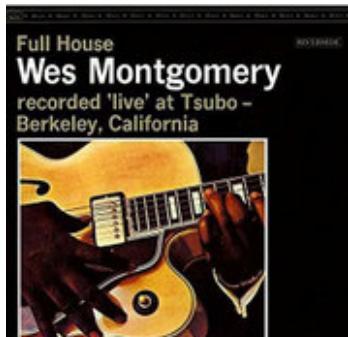


Bluse」という代表作があります。また、1曲目は「Airgin (エアジン)」、ソニー・ロリンズの曲でマイルス・デイヴィス、アート・ペッパーなど数多くのジャズ奏者がカバーしている、テンポが速い難曲です。

ウェスのギタープレイは、多くのジャズギタリストに影響を与えたと言われます。その奏法は特別なもので、大抵のギタリストはピックを使いますが、彼は「右手で親指」しか使いません。コードもソロもほとんど親指で弾きます。後に、映像を見るとソロプレイは、すべて親指のダウンピッキングです。ピック弾きのように32分音符など早いプレイは厳しいですが、主に8分音符、まれに16分音符でメロディアスかつグループ感のある印象的なアドリブソロを聴かせてくれます。

もう一つ特徴的なのが、「オクターブ奏法」です。テーマやアドリブソロで多用します。これは簡単ではありません。ギターを弾いている方はわかると思いますが、1弦と3弦、2弦と4弦など、オクターブの音を同時に弾いてメロディーやソロを弾くのは、かなりの修練がいります。自分はギターを始めて50年以上になりますが、いまだにきれいには弾けません。これも親指によるダウンピッキングです。

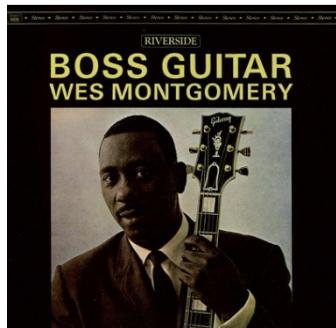
次に第2作「Full House」は、自分がウェスのなかで一番好きなアルバムです。1曲目の「Full House」は相当聴きました。テーマ部分はコピーして練習しましたが、ソロは才能が



なく無理でした。この曲はブルースを基本にしており、頭のギターとサックスのテーマは、とてもカッコ良く乗りの良いもので、すっかり虜になったものです。サビからのコード進行は曲の流れにピッタリで、テーマに戻ります。これは、大変勉強になりました。

アルバム全般、ブルース、ラテン超のスピード感のある曲が多い中「I've Grown Accustomed to Her Face」のような美しいスローバラードがあり、コード奏法を交えたソロプレイが素晴らしいです。仕事を引退したらチャレンジしようかと思ってます。

第3作目「Boss Guitar (ボスギター、出典 Riversid Records 1963年)」は、ウェスのギターとオルガンのソロが印象的で、ラテンの名曲「Besame Mucho (ベサメ・ムーチョ)」、ウェスならではの解釈で洗練されたプレイが聴けます。スタンダードの名曲「Days of Wine



And Roses (酒とバラの日々)、「Canadian Sunset (カナディアン・サンセット)」などが堪能できます。

このアルバムは、初期のなかで一番メロディアスで聴きやすいと思います。

以上の3枚のアルバムが、ウェスの初期の代表作で、意欲的に斬新なプレイが聴け、彼の全盛期と評価の高いものです。この後に出でてくる数々のジャズギタリストに影響を与えました。

その後に、レーベルを移籍しビートルズなどの有名曲のカバーとオリジナル曲を交えたアルバムも数枚出しておらず商業的に成功したようですが、バックにオーケストラを入れたり、ソロプレイを控えるなど大衆向けされた感があります。プレイそのものの質は維持されおりますが、初期の3枚と比べると、自分は物足りなさがあります。

ウェス・モンゴメリーは、1968年、心臓発作で45歳という若さで亡くなっています。楽譜はあまり読めなかったらしいですが、ジャズの基本的な理論、多様なスケール（音階）は頭の中と指板の上で理解し、例えばツーファイブ進行（II⇒V⇒I、ターンアラウンド）を多用、転調しながら難しい即興ソロパートをつくるなど、その奏法は天才的であると思います。

1960年台前半、自分がまだ小学校に入る前に、ウェスのような素晴らしいミュージシャンがいて、その技法、奏法は現代にも受け継がれ、今聴いても古さを感じません。

これからジャズギターをやってみたいという意欲的な方は、ウェスのこの3枚を勉強すると良いでしょう。残念ながら自分は挫折しております。

2025年12月 士別軌道の社長 井口 裕史 67歳